

自分たちの地域は自分たちで守る

地域防災マップを作ろう

今年も大阪府北部地震や7月の西日本豪雨など全国各地で大規模な自然災害が発生しています。このような災害では、広範囲にわたって被害が生じるため、公的機関で全ての地域に迅速な対応を行うことは難しくなります。そこで、自らの身を自らで守る「自助」、地域が協力してお互いを守る「共助」という地域の防災力を発揮することが大切です。

市では、地域の防災力向上に役立ててもらえるよう、地域防災マップの作成を支援しています。地域防災マップ作りを通して、自分たちの住む場所の防災について考えてみませんか。

住民の手でつくる防災マップ

地域防災マップとは、地域(区)ごとに災害の危険性が高い場所、過去に災害が起こった箇所、避難場所、避難経路などを地図に示したものです。

特徴としては、住民の皆さんが主体となって作成する点です。市が作成している土砂災害や洪水、津波ハザードマップに示された被害の発生予測などの情報を踏まえて、防災上の安全な場所や危険な場所がどこかを、住民同士で話し合い、現地を確かめながら地図に書き込み、完成させます。

地元のいろいろな方が参加しながら地域防災マップを作成することで、その地域特有の情報を共有することができます。地域防災マップの作成は、より災害に強い地域づくりにつながります。

地域防災マップを作るメリット

- ▼自分たちの地域を改めてよく知ることができる
- ▼地域の実情を目で見て感じられる
- ▼地域の中で情報を共有できる
- ▼住民の防災への関心を高められる

地域防災マップの作成例 (右表面、下裏面)

檜川区が作成したマップは、表面に土砂災害や洪水危険区域、過去に浸水した場所などが表記されていて、避難場所や避難ルート、避難する際に注意する事項などをわかりやすく記載しています。また、裏面に、避難情報の種類や避難する際の心得、防災情報の入手方法など、防災に役立つ情報を記載しています。マップは一例です。レイアウトや必要な情報を皆さんで話し合い、地域に合った防災マップを作りましょう。



避難情報	危険度	住民に求める行動
避難準備・高齢者等避難開始	低	避難の準備を始め、ラジオやテレビの情報を確認してください。災害時要援護者の力を避難所へ避難させる準備を始めてください。
避難指示	中	避難を始めてください。高齢者・要援護の方など避難しにくい、災害時要援護者は避難先を確認してください。
避難指示(緊急)	高	ただちに避難してください。避難行動に危険が伴うような状況では無理をしないでください。避難所などで避難を待つ場合、避難する準備を整えてください。

避難の心得	車での避難は避けて
いざというときに、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。	車は、約30cmの浸水でも走行困難になります。車での避難は避けましょう。
家族には連絡がとれず、外出中の家族は、どこかへ避難するといったような名前を伝えておきましょう。	安全なルートで避難。避難所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な道を選びましょう。
集団で助け合おう。家族で行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。	避難所では指示に従いましょう。避難所にいないら、避難所担当者の指示に従い、住所・氏名等を報告しましょう。

防災情報の入手方法

- 防災情報受信機(防災ラジオ)
- トーンメール
- 防災放送チャンネル
- 雨量など気象情報
- 防災メール(防災メール)
- 防災放送チャンネル

「福井県河川・砂防防災情報」 <http://ame.pref.fukui.jp/> 「気象庁ホームページ」 <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

地域防災マップの作成を支援しています

いつ、どこで起こるか分からない災害の発生を完全に防ぐことはできません。そのため、災害発生時の被害を減らす「減災」を日頃から意識する必要があります。

市では、地域における災害への備えを充実させるため、平成28年度から地域防災マップの作成支援を行っています。

希望する区へは職員が出向き、住民の皆さんとともに作成を進めます(下図参照)。完成したマップは、区内の全戸に配布し、地域の情報共有に生かされます。

これまでに市内の27区が地域防災マップの作成に取り組んでおり、今年度は現在9区が着手しています。

地域防災マップの作成は、自分たちの住む地域の防災について考えるきっかけとなります。作成を希望する区は、危機管理対策課までご相談ください。

地域防災マップ作成支援の流れ

1 実施区全体への説明会を開催



市担当職員からマップ作成の手順を説明し、全体の流れを把握します。

2 各区ワークショップを開催



区の地図を使って、災害情報や危険箇所、自宅からの避難経路などを地図に記入します。



地図に避難経路や避難時の要注意箇所などを記入します。

3 区内をまち歩き



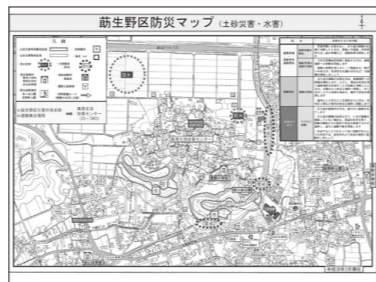
作成したマップを持って、実際に区内を歩きます。新たな気づきなどを話し合い、共有します。

4 マップ記載内容の確認



これまでの取り組みを踏まえて、内容を最終確認します。マップの活用方法についても話し合います。

5 マップの完成!



完成したマップは区内に全戸配布します。

台風の接近が多い季節、避難情報の種類を再確認

市では、大雨、洪水、地震、津波など様々な災害において市民の安全を確保するため、災害の状況に応じて、避難に関する情報を発表します。避難に関する情報は、テレビ(092チャンネル)、防災ラジオ、防災メール、敦賀市ホームページなど様々な方法で市民の皆さんにお伝えしています。

これからの季節は台風の接近が予想されます。台風など大雨のときは普段以上に気象情報などに注意して、避難情報を見聞きした場合は、家族、近所で声をかけあって迅速な避難行動を取りましょう。

【避難情報の種類と切迫度】

- 避難準備・高齢者等避難開始**
- 避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方など)は避難を開始しましょう
 - その他の人は、避難準備を整えましょう

- 避難指示**
- 速やかに避難を開始しましょう

- 避難指示(緊急)**
- まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難しましょう
 - 外出することによって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難しましょう